

# 執筆者紹介

## ■大西 晴樹

学校法人東北学院院長、東北学院大学学長。1975年3月法政大学法学部政治学科卒業。1978年3月明治大学大学院政治経済学研究所博士前期課程修了。1983年3月神奈川大学大学院経済学研究所博士後期課程満期退学。1991年4月a visiting scholar at Regent's Park College, Oxford University (1993年3月31日迄)。1996年12月著書『イギリス革命のセクト運動』(御茶の水書房/1995年)にて神奈川大学より博士号(経済学)取得。2012年7月文部科学省高等教育局私学部参事官付学校法人運営調査委員(現在に至る)。2020年11月キリスト教学校教育同盟理事(現在に至る)。

## ■二瓶 裕之

北海道医療大学薬学部教授、情報センター長。博士(工学)(北海道大学)。1994年北海道大学大学院工学研究科電子工学専攻博士課程単位取得退学。2014年4月より現職。ICT活用システムの開発と教育改善、データサイエンス教育に関する研究に従事。私立大学情報教育協会協会賞(2023)、私立大学情報教育協会奨励賞(2012)等受賞。

## ■中山 章

北海道医療大学薬学部講師、薬学部ネットワーク委員長。博士(薬学)(北海道医療大学)。2001年北海道医療大学大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程修了。2006年4月より現職。薬学実務実習支援システムの開発運用と教育改善、学校保健に関する研究に従事。私立大学情報教育協会協会賞(2023)、私立大学情報教育協会奨励賞(2012)等受賞。

## ■木村 治

北海道医療大学薬学部講師。博士(薬学)。1996年北海道医療大学薬学研究科修士課程修了。2005年北海道医療大学個性医療科学センター助手、2007年北海道医療大学薬学部講師(病院薬学)、同年より現職。私立大学情報教育協会協会賞(2023)受賞

## ■西牧 可織

北海道医療大学心理学部、情報センター講師。博士(情報科学)。2015年北海道大学大学院情報科学研究科情報工電学専攻博士後期課程修了。同年4月より現職。大学教育における学修支援システムの開発・データサイエンス教育に関する研究に従事。私立大学情報教育協会協会賞(2023)、私立大学情報教育協会奨励賞(2016)等受賞。

## ■浅原 知恵

城西大学経済学部・教職課程センター教授。上智大学総合人間科学研究科心理学専攻博士後期課程修了。博士(心理学)。専門は臨床心理学(臨床心理士・公認心理士)。上智大学文学部心理学助手、医療・教育機関での臨床実践を経て2015年に城西大学に着任。教職課程の心理学科目を担当。

## ■安齋 徹

清泉女子大学文学部地球市民学専攻教授。1984年一橋大学法学部卒業、2009年立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科修士課程修了、修士(社会デザイン学)、2015年早稲田大学大学院社会科学研究所博士課程修了、博士(学術)。企業勤務、群馬県立女子大学教授、目白大学教授などを経て2020年4月より現職。著書『企業人の社会貢献意識はどう変わったのか』(ミネルヴァ書房)、『女性の未来に大学ができること』(樹村房)など。

## ■倉光 君郎

日本女子大学理学部数情報科学科教授。1972年愛知県生まれ。理学博士。東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修了後、東京大学大学院情報学環助手、横浜国立大学大学院准教授を経て、2018年より現職。専門はソフトウェア開発手法。日本科学技術振興機構(JST)CREST「ディープラーニングOS領域」の研究代表などを務める。著書「Pythonで学ぶ解析表現文法と構文解析」(森北出版)。現在は、大規模言語モデルを活用した教育、ソフトウェア開発に興味を持ちつつ、女性エンジニアや女性研究者の育成に努めている。

## ■小池 裕也

明治大学理工学部応用化学科専任准教授。博士(工学)。2005年明治大学大学院理工学研究科工業化学専攻博士後期課程を修了。その後、東京大学大学院工学系研究科研究機関研究員、東京大学アイソトープ総合センター助手、助教を経て、2011年明治大学理工学部専任講師と着任。2022年より専任准教授。基礎化学実験主任として基礎化学実験を統括し、教育と安全の質の向上に取り組んでいる。

## ■鈴木 来

明治大学理工学部応用化学科助教。博士(工学)。明治大学大学院理工学研究科応用化学専攻博士前期課程を修了後、医療機器メーカーにて開発職に従事。2023年に明治大学大学院理工学研究科応用化学専攻博士後期課程を修了し、その後2023年4月より明治大学理工学部応用化学科助教として着任。専門は、生体材料学、分析化学。

## ■小川 熟人

明治大学理工学部応用化学科専任准教授。博士(工学)。2011年東京工業大学大学院生命理工学研究科生体分子機能工学専攻博士後期課程を修了。その後、早稲田大学理工学術院助手、東京工業大学大学院生命理工学研究科生物プロセス専攻助教を経て、2016年明治大学理工学部応

用化学科専任講師として着任。2021年より専任准教授。専門は有機合成化学、医農薬化学、香料化学。

## ■大和田和治

立命館大学食マネジメント学部・教授。専門は英語教育学、異文化遠隔教育。著書に『応用言語学事典』(研究社：分担執筆)、『英語教育の実践的探究』(漢水社：分担執筆)、『英語教育のグローバルデザイン』(学文社：分担執筆)などがある。現在、環太平洋応用言語学学会共同会長(Co-President of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics)。

## ■小谷 直樹

大阪工業大学情報科学部講師。博士(工学)。2013年大阪工業大学情報科学部特任助手。2016年同特任助教、2019年同特任講師を経て、2021年より現職。専門は、機械学習、知能ロボティクス。

## ■尾花 将輝

大阪工業大学情報科学部講師。2013年奈良先端科学技術大学院大学博士課程了。博士(工学)。2013年大阪工業大学助手を経て現在同大学の講師。ソフトウェア工学に関する研究に従事。情報処理学会、ソフトウェア科学会 各会員

## ■杉川 智

大阪工業大学情報科学部講師。博士(工学)。2013年大阪工業大学情報科学部特任助手。2016年同特任助教、2019年同特任講師を経て、2021年より現職。専門は、システム工学、システム最適化。

## ■佐野 睦夫

大阪工業大学情報科学部教授。1983年3月京都大学大学院工学研究科修士課程を修了。同年4月電電公社現在のNTTに入社。2002年4月大阪工業大学情報科学部情報メディア学科教授。2021年4月特任教授。現在に至る。パターン認識・理解技術、生活支援型ロボット、食メディア、認知ケアなどの研究に従事。博士(工学)。

## ■足立 安正

摂南大学看護学講師。2000年大阪府大東市役所に入職。2013年兵庫医療大学助教。2019年より現職。

## ■行木 孝夫

北海道大学大学院理学研究院数学部門教授、博士(理学) / 数理・データサイエンス教育研究センター兼務。1995年3月東京大学大学院数理科学研究科博士課程中退。1995年4月北海道大学大学院理学研究科助手。2019年7月より現職。専門は非線形力学系、時系列解析。

## ■早川 美徳

東北大学データ駆動科学・AI教育研究センター教授、東北大学情報科学研究科教授。1989年東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士課程後期3年の課程。1989年東北大学情報処理教育センター助手、1992年東北大学電気通信研究所助手、2000年東北大学理学研究科助教、2009年東北大学教育情報基盤センター教授を経て、2017年東北大学情報科学研究科教授、2019年東北大学データ駆動科学・AI教育研究センター教授。工学博士。専門は非平衡系のパターン形成と動力学。

## ■篠原 歩

東北大学大学院情報科学研究科教授。1988年九州大学理学部数学科卒業、1990年九州大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻修士課程修了。1994年博士(理学)取得。九州大学理学部附属基礎情報学研究施設助手、助教、九州大学大学院システム情報科学研究科助教を経て2015年より現職。文字列処理や機械学習に従事。

## ■鈴木 顕

東北大学大学院情報科学研究科准教授。2013年9月東北大学にて博士(情報科学)を取得。同年より東北大学大学院情報科学研究科の助教を経て、2019年5月より現職。アルゴリズムや計算複雑性の研究に従事。井上科学振興財団第31回井上研究奨励賞、船井情報科学振興財団第14回船井研究奨励賞など受賞。著書に『機械学習アルゴリズム』がある。

## ■小田まり子

久留米工業大学AI応用研究所副所長。工学部情報ネットワーク工学科教授。AI応用研究所教育支援部門担当。2012年佐賀大学大学院博士課程修了。博士(工学)。専門分野は教育工学。教育分野へのAI活用研究に従事。2020年より現職。久留米工業大学AI応用研究所副所長として、本学のAI・数理・データサイエンス教育全般を担当している。

## ■八坂 亮祐

久留米工業大学PCサポートセンター、教育研究コーディネーター。2017年鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程修了。博士(農学)。2021年より現職。プログラミングやAI等の研究・教育に取り組んでいる。

## ■河野 央

久留米工業大学学長補佐(入試広報担当)。工学部情報ネットワーク工学科教授。AI応用研究所最新技術調査部門担当。2004年九州芸術工科大学(現九州大学)大学院博士課程修了。博士(芸術工学)。専門分野は、CG・VR応用。大学DXや入試広報から見た教学改善にも取り組んでいる。

\* 本欄はお書きいただいた資料からできるだけ統一し、掲載しました。